

## 6. 令和5年度 基準範囲共用化委員会報告

### Report from the committee on common-use reference interval in 2023

堀田 多恵子 (基準範囲共用化委員会委員長、九州大学病院検査部技師長)  
**Taeko Hotta (Chairperson of the committee on common-use reference interval,  
Chief Medical Technologist for Kyushu University Hospital)**

#### 活動内容：

共用基準範囲採用拡大、臨床判断値との違いについて周知に努めた。

- ・第63回日本臨床化学会年次学術集会(2023年10月27日(金)) 基準範囲共用化専門委員会報告
- ・検体検査情報システムベンダーへの共用基準範囲アンケート調査

下記の問合せについて回答した。

- ・花崎靖氏(株)日本医学臨床検査研究所 脂質4項目のJCLLS 共用基準範囲採用施設数
- ・大倉氏 新潟県立燕労災病院 血漿の基準範囲について
- ・見村典子氏 金田病院 MCHCの単位について

#### 委員会開催：

2023年5月19日～9月23日 書面会議  
『SRL基準範囲、ALT奈良宣言について』

#### 状況報告：

1. 共用基準範囲について下記の転載申請があり、審議の上、許可した。
  - ・南江堂「今日の臨床検査 2023-2024」
  - ・臨床検査 第67巻 第7号「検査の標準化に必要な統計学(荒木秀夫、堀田多恵子執筆)」
  - ・臨床検査法提要 第36版
  - ・JAMT技術教本シリーズ『一般検査技術教本 第2版』
  - ・異常値の出るメカニズム 第8版

#### 2. 共用基準範囲採用%の推移調査

日本医師会、日本衛生臨床検査技師会の精度管理調査アンケートから年次採用率の推移を調査し、いずれのアンケートにおいても年次採用している医療機関が増加していることを確認した。(平均採用率 日臨技 R4 40.9% → R5 43.5%)

特にALPはIFCC法への変更に伴い採用した施設を多く認めた。(86.9%)